

<自己評価シート>

学籍番号:

氏名:

1 保育教諭として必要な資質・能力についての自己評価

提出日 年 月 日

5:よくできる 4:ある程度できる 3:どちらとも言えない 2:あまりできない 1:できない

自己評価

必要な資質能力の指標			関連する主な必修科目	自己評価			
大項目	小項目	具体的指標		1年次	2年次	3年次	4年次
保育についての理解	保育の本質・目的	保育の思想と歴史の変遷を踏まえた上で、保育の意義を理解し、保育の現状と課題について答えることができる。	保育原理、教育原理	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1
	福祉の意義と課題	子どもを取り巻く福祉の歴史および現行制度を理解し、これからの福祉の課題について答えることができる。	児童家庭福祉、社会福祉、相談援助、社会的養護	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1
	保育者の専門性	保育者の役割と専門性について答えることができる。	保育者論	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1
子どもについての理解	子どもの基礎理解	子どもの発達・心理・保健・食と栄養についての基礎知識を習得している。	保育の心理学Ⅰ・Ⅱ、子どもの保健Ⅰ・Ⅱ、子どもの食と栄養	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1
	障害児への理解	発達障害の基礎的理解を踏まえた障害児保育の発達援助を理解し、関係機関との連携の必要性について答えることができる。	障害児保育、保育の心理学Ⅰ	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1
	子どもを取り巻く環境の理解	社会的養護や家庭支援の現状と課題について答えることができる。	家庭支援論、社会的養護、社会的養護内容、保育相談支援	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1
保育の内容・方法	保育課程の理解と実践	保育所保育指針および幼稚園指導要領を理解し、保育課程の編成と指導計画の作成を行うことができる。	保育課程論、保育内容総論	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1
	保育内容の理解と実践	保育内容の5領域を理解し、子どもの生活全体を通して養護(生命の保持・情緒の安定)と教育(健康・人間関係・環境・言葉・表現)を一体的に実践することができる。	保育内容総論、保育内容指導法(健康・人間関係・環境・言葉・音楽表現・造形表現)	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1
	保育場面での表現技術	子どもの遊びを豊かにするための、身体表現・音楽表現・造形表現・言語表現に関する技術を習得している。	音楽と遊び、造形表現演習、幼児体育演習	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1
保育実践	実習施設の理解	保育所および児童福祉施設等の役割と機能を理解し、一日の流れを説明することができる。	保育実習指導Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、保育実習Ⅰa・Ⅰb・Ⅱ・Ⅲ	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1
	実習の計画と記録	実習先での記録の取り方を習得し、それを実習における計画と実践に生かすことができる。	保育実習指導Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、保育実習Ⅰa・Ⅰb・Ⅱ・Ⅲ	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1
	実践への応用力	子どもに関する基礎知識を踏まえ、子どもの生活と遊びを通して、実習現場に応用することができる。	保育実践演習、保育実習Ⅰa・Ⅰb・Ⅱ・Ⅲ	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1
	子どもとの関わり	子どもの発達段階を考慮した子どもとの関わりを適切に行うことができる。		5・4・3・2・1	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1

コミュニケーション	社会人基礎力	挨拶、言葉遣い、服装、他の人への接し方など、社会人としての基本的なマナーを身に付けることができる。		5・4・3・2・1	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1
	連携に向けた姿勢	よりよい保育の実現に向けて、保護者や地域、関係諸機関と連携して保育を行っていくことの意義・重要性を理解し、実践に生かすことができる。		5・4・3・2・1	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1
課題探求	自己の課題認識と探求心	自己の課題を認識し、その解決に向けて取り組むべき目標を立て、学び続ける主体的な姿勢を身に付けている。		5・4・3・2・1	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1
	継続的な子ども理解	固定的な子ども理解ではなく、流動的な子どもの実態をつかむ意識をもち、継続的に子どもを理解し続けようとする姿勢を身に付けている。		5・4・3・2・1	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1
	保育現場に関する社会動向への着目	保育に関する社会動向に関心を持ち、自らの意見を発言することができる。		5・4・3・2・1	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1

## 2. 保育教諭育成指標としての必要な資質・能力についての自己評価

5:よくできる 4:ある程度できる 3:どちらとも言えない 2:あまりできない 1:できない

必要な資質能力の指標			自己評価			
大項目	小項目	「養成期」の具体的指標	1年次	2年次	3年次	4年次
保育者としての基本姿勢	危機管理やコンプライアンス意識の徹底	危機管理や法令遵守の必要性・重要性を理解することができる。	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1
	コミュニケーション力	人の話を聞いたり意思表示をしたりすることができる。	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1
	自己管理能力	感情のコントロールができる。時間管理を行い、責任ある行動をとることができる。	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1
	使命感、倫理観、情熱	保育者としての使命を理解することができる。	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1
	学ぶ意欲、素直さ・謙虚さ	保育に関心をもち、周りからの助言を受け入れることができる。	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1
	チャレンジ精神、積極性	小さな困難を乗り越えることができる。	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1
保育実践力	保育実践企画力	幼稚園教育要領、保育所保育指針、認定こども園要領を理解するとともに、保育実践のイメージをもつことができる。	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1
	保育実践力	保育中の声掛けや視覚的アプローチ、掲示物作成等に必要な基本的なスキルを身に付けている。	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1
	保育実践評価、改善力	保育実践改善の意義や重要性及び保育実践を分析して改善する手立てを理解することができる。	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1

子ども理解・支援力	子どもとのコミュニケーション力、子ども理解力	子ども一人一人に向き合おうとしている。子ども支援の意義と重要性を理解することができる。	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1
	子どもへの支援力	子どもの個別対応や集団への関わりを行うための基礎的なスキルを理解し、身に付けている。	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1
組織への参画・貢献	情報収集力、企画力	情報を収集するスキルをもち、収集した情報を活用して現状を改善することができる。	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1
	組織への貢献	園の組織について理解するとともに、それぞれの役割と業務を理解することができる。	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1
	地域や保護者への対応力	ボランティア活動等を通じて、保護者や地域と連携することの重要性を理解することができる。	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1
	リーダーシップ、人材育成力、協働性	学び続ける保育者の重要性や保育者の協働性について理解し、指導を受け入れる姿勢があり、自己啓発を行うことができる。	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1

■教員からのコメント

(1年次)

(3年次)

(2年次)

(4年次)